









新															
(P.32)															
4. 文化財の分布状況															
(1) 指定等文化財の分布状況															
内子町には、令和6年(2024)3月25日現在で、合計122件の文化財がある。その内訳は、国指定文化財が5件、国選定地区が1件、国登録有形文化財が15件、県指定文化財が7件、町指定文化財が94件となっている。															
文化財の種別指定等の状況															
	有形文化財								無形文化財	民俗文化財			記念物		計
	建造物	絵画	彫刻	工芸品	書跡	古文書	考古資料	歴史資料		有形の民俗文化財	無形の民俗文化財	遺跡	名勝地	動物・植物・地質鉱物	
国指定	4								1					5	
国選定	1													1	
県指定			1							1				5	
町指定	3	3	9	2		2	1	9	1	12	6	8	1	37	
国登録	15													15	
計	23	3	10	2	0	2	1	9	1	13	7	8	1	42	

旧														
(P.32)														
4. 文化財の分布状況														
(1) 指定等文化財の分布状況														
内子町には、令和5年(2023)3月20日現在で、合計117件の文化財がある。その内訳は、国指定文化財が5件、国選定地区が1件、国登録有形文化財が10件、県指定文化財が7件、町指定文化財が94件となっている。														
文化財の種別指定等の状況														
	有形文化財								無形文化財	民俗文化財		記念物		計
	建造物	絵画	彫刻	工芸品	書跡	古文書	考古資料	歴史資料		有形の民俗文化財	無形の民俗文化財	遺跡	名勝地	
国指定	4									1				5
国選定	1													1
県指定			1								1			5
町指定	3	3	9	2		2	1	9	1	12	6	8	1	37
国登録	10													10
計	18	3	10	2	0	2	1	9	1	13	7	8	1	42

■新旧対照表

新	旧
<p>(P.33)</p> <p>文化財の分布状況図（内子・五十崎中心部）</p> <p>高昌寺伽藍 本芳我家住宅 大村家住宅 和蠟燭づくり 酒蔵のある風景 内子座 恵美須神版木 内子駅 五十崎駅 JR予讃線 松山自動車道 曾根城跡 河内家住宅主屋、土蔵、井戸 小田川 八日市護国 重要伝統的建造物群保存地区 上芳我家住宅 内子及び周辺地域の製蠟用具 旭館 旧高橋家住宅 旧下芳我家住宅主屋、隠居屋 龍王城跡 内子町 村上家住宅 栗田家住宅 木造阿弥陀如来及び 兩脇侍立像(宗光寺) 五十崎大凧合戦 桐下駄製造 山竹家養蚕室 上岡美平の絵</p>	<p>(P.33)</p> <p>文化財の分布状況図（内子・五十崎中心部）</p> <p>高昌寺伽藍 本芳我家住宅 大村家住宅 和蠟燭づくり 酒蔵のある風景 内子座 恵美須神版木 内子駅 五十崎駅 JR予讃線 松山自動車道 曾根城跡 河内家住宅主屋、土蔵、井戸 小田川 八日市護国 重要伝統的建造物群保存地区 上芳我家住宅 内子及び周辺地域の製蠟用具 旭館 高橋邸 旧下芳我家住宅主屋、隠居屋 龍王城跡 内子町 村上家住宅 栗田家住宅 木造阿弥陀如来及び 兩脇侍立像(宗光寺) 五十崎大凧合戦 桐下駄製造 山竹家養蚕室 上岡美平の絵</p>
<p>(P.40)</p> <p>(5)国登録文化財 国の登録有形文化財は建造物が15件ある。</p>	<p>(P.40)</p> <p>(5)国登録文化財 国の登録有形文化財は建造物が10件ある。</p>

■新旧対照表

新	旧
<p>(P.42)</p> <p>大正から昭和初期にかけて新たに開発された高岡町に興行施設の一つとして建築された建物で、内子町の近代的な発展の代表的な施設の一つとして価値が高い。また、地方都市における近代の興行施設建築の一つとして歴史的価値があるとして平成 25 年（2013）に登録有形文化財となった。</p> <p>【旧二宮製材所事務所兼主屋】（登録有形文化財（建造物）、小田地区）★ 昭和 17 年（1942）建築の林家の町家。通りに東面する入母屋造平入棧瓦葺。北に上間、南は東半を一室の事務所、西半は三室続きの座敷とする。二階は建ちを押さえつつ四方に出桁で軒を持ち出し、豪壮にみせる。令和 3 年 10 月 14 日に登録有形文化財となった。</p> <p>【旧高橋家住宅主屋・離れ・表門・石垣及び土塀・井戸】（登録有形文化財（建造物 2 件、工作物 3 件）内子・中央地区）★ 「日本のビール王」と呼ばれる高橋龍太郎の生家。約 800 坪の敷地の前面に、丸石を使った石垣と土塀が築かれ、正面に木造平屋建、瓦葺の母屋、左に木造二階建、瓦屋根の離れが建つ。建築年代は昭和初期とされ、各所に大工や左官の伝統的な技と工夫を見ることが出来る。令和 5 年●月●日に登録有形文化財となった。</p> <p>(6) 指定文化財・登録文化財以外の主な文化財 内子町では、未指定の文化財についても、地域の歴史や文化を伝える「地域遺産」のことを広く「文化遺産」と表し、風土に息づく文化遺産、歴史を伝える文化遺産、技術を伝える文化遺産、美術品などの暮らしを彩る文化遺産として、平成 27 年（2015）発行の『内子町誌うちこ時草紙Ⅰ文化編』において紹介している。主なものは次のとおりである。</p> <p>【栗田家住宅】（五十崎・天神地区）★ 栗田家は平岡村の庄屋を務めた家で、当家に伝わる日記等によると建築は明治 29 年（1896）。愛媛県内屈指の農家建築であり、明治期から大正期にかけての家農の屋敷構えを良好に残し、当時の暮らしぶりを今に伝える、貴重な建築物である。「千俵蔵」と呼ばれたレンガ積の腰壁の米蔵が同時期に建築されている。長州大工の夫婦が住み込みで建てたと伝わる。</p> <p>【村上家住宅】（五十崎・天神地区）★ 明治・大正期に製蠶業で財を成した村上家。当家の記録によると大正 13 年（1924）、当主・村上孫吉の時に上棟した。孫吉は進歩的な人物で、村上家住宅は伝統的な間取りをもとに居住性の向上を考慮した造りになっており、大正末期の農村における近代和風住宅の好例と評されている。</p>    	<p>(P.42)</p> <p>大正から昭和初期にかけて新たに開発された高岡町に興行施設の一つとして建築された建物で、内子町の近代的な発展の代表的な施設の一つとして価値が高い。また、地方都市における近代の興行施設建築の一つとして歴史的価値があるとして平成 25 年（2013）に登録有形文化財となった。</p> <p>【旧二宮製材所事務所兼主屋】（登録有形文化財（建造物）、小田地区）★ 昭和 17 年（1942）建築の林家の町家。通りに東面する入母屋造平入棧瓦葺。北に上間、南は東半を一室の事務所、西半は三室続きの座敷とする。二階は建ちを押さえつつ四方に出桁で軒を持ち出し、豪壮にみせる。令和 3 年 10 月 14 日に登録有形文化財となった。</p> <p>(6) 指定文化財・登録文化財以外の主な文化財 内子町では、未指定の文化財についても、地域の歴史や文化を伝える「地域遺産」のことを広く「文化遺産」と表し、風土に息づく文化遺産、歴史を伝える文化遺産、技術を伝える文化遺産、美術品などの暮らしを彩る文化遺産として、平成 27 年（2015）発行の『内子町誌うちこ時草紙Ⅰ文化編』において紹介している。主なものは次のとおりである。</p> <p>【高橋邸】（内子・中央地区）★ 「日本のビール王」と呼ばれる高橋龍太郎の生家である。約 800 坪の敷地の前面に、丸石を使った石垣と土塀が築かれ、正面に木造平屋建、瓦葺の母屋、左に木造二階建、瓦屋根の離れが建つ。建築年代は昭和初期とされる。部屋の配置や窓の取り方など、各所に大工や左官の伝統的な技と工夫を見ることが出来る。</p> <p>【栗田家住宅】（五十崎・天神地区）★ 栗田家は平岡村の庄屋を務めた家で、当家に伝わる日記等によると建築は明治 29 年（1896）。愛媛県内屈指の農家建築であり、明治期から大正期にかけての家農の屋敷構えを良好に残し、当時の暮らしぶりを今に伝える、貴重な建築物である。「千俵蔵」と呼ばれたレンガ積の腰壁の米蔵が同時期に建築されている。長州大工の夫婦が住み込みで建てたと伝わる。</p> <p>【村上家住宅】（五十崎・天神地区）★ 明治・大正期に製蠶業で財を成した村上家。当家の記録によると大正 13 年（1924）、当主・村上孫吉の時に上棟した。孫吉は進歩的な人物で、村上家住宅は伝統的な間取りをもとに居住性の向上を考慮した造りになっており、大正末期の農村における近代和風住宅の好例と評されている。</p>    

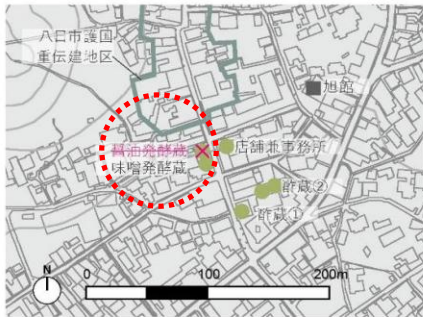
■新旧対照表

新

(P.84)



森文醸造の店舗兼事務所



森文醸造位置図

在地に社殿が造営され、菅原道真公とともに奉斎されている。社殿への階段に明治26年(1893)と刻まれていることからその頃にはこの地に築造されていたと考えられる。

灯笼には亀岡酒造の亀岡久平氏の銘があり、両者には深い関わりがある。

(2) 酢・味噌・醤油造りに関連する建造物

① 森文醸造

明治26年(1893)に森文太郎が創業した食酢・醤油・味噌などを手がける醸造業者。現在の醸造蔵は八日市護国の重伝建地区と同じ通り沿いにあり、設備の投入などを繰り返しながら現在も操業を続けている。現在は通り沿いに5軒の建物を持ち、そこで醤油、味噌などを製造、販売している。

●店舗兼事務所：もとは町家主屋。登り梁の形式や2階梁の煤け具合から江戸末期から明治初期の建築と推定。昭和33年(1958)に購入したと伝わる。

●醤油発酵蔵、味噌発酵蔵：痕跡から分かるかつての正面の形式や明治10年(1877)の『建家調帳』に記載される建物の規模とほぼ一致すること等から江戸後期から末期の建築と推定。大正6年(1917)に味噌の醸造を始めるため隣接する2棟を購入したと伝わるが、1棟は令和5年に取り壊された。

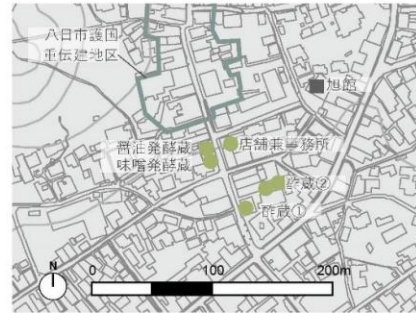
●酢蔵①：現在は味噌・醤油の醸造所。もとは町家主屋。登り梁の形式や復元調査からわかる正面の形式、『建家調帳』記載の建物の規模とほぼ一致すること等から江戸時代後期の町家と考えられる。昭和33年(1958)に購入。

旧

(P.84)



森文醸造の店舗兼事務所



森文醸造位置図

在地に社殿が造営され、菅原道真公とともに奉斎されている。社殿への階段に明治26年(1893)と刻まれていることからその頃にはこの地に築造されていたと考えられる。

灯笼には亀岡酒造の亀岡久平氏の銘があり、両者には深い関わりがある。

(2) 酢・味噌・醤油造りに関連する建造物

① 森文醸造

明治26年(1893)に森文太郎が創業した食酢・醤油・味噌などを手がける醸造業者。現在の醸造蔵は八日市護国の重伝建地区と同じ通り沿いにあり、設備の投入などを繰り返しながら現在も操業を続けている。現在は通り沿いに6軒の建物を持ち、そこで醤油、味噌などを製造、販売している。

●店舗兼事務所：もとは町家主屋。登り梁の形式や2階梁の煤け具合から江戸末期から明治初期の建築と推定。昭和33年(1958)に購入したと伝わる。

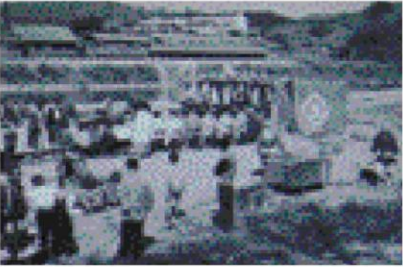

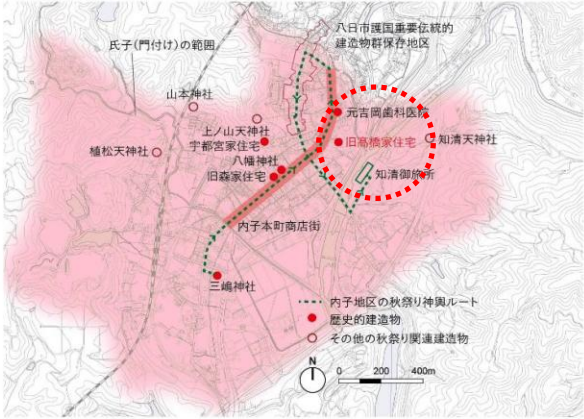

●醤油発酵蔵、味噌発酵蔵：痕跡から分かるかつての正面の形式や明治10年(1877)の『建家調帳』に記載される建物の規模とほぼ一致すること等から江戸後期から末期の建築と推定。大正6年(1917)に味噌の醸造を始めるため隣接するこの2棟を購入したと伝わる。

●酢蔵①：現在は商品倉庫として使用。もとは町家主屋。登り梁の形式や復元調査からわかる正面の形式、『建家調帳』記載の建物の規模とほぼ一致すること等から江戸時代後期の町家と考えられる。昭和33年(1958)に購入。

■新旧対照表

新	旧
<p>(P.93)</p> <p>して稲荷神社、松尾神社、多賀神社、祇園社がある。</p> <p>③ 旧高橋家住宅</p> <p>アサヒビール株式会社やサッポロビール株式会社の前身となる大日本麦酒株式会社社長や、第3次吉田内閣の通産大臣を務めた高橋龍太郎の生家。高橋家は五百木村の庄屋の分家で、本家の流れを汲み江戸期に「五百木屋」と号して酒造業を営む一方、大洲藩から禄を与えられ多くの使用人を抱える資産家であった。</p> <p>約 800 坪の敷地の前面に丸石を使った石垣と土塀が築かれ、正面に木造平屋建、瓦葺の主屋、左側に木造2階建、瓦葺の離れが建っている。建築年代は昭和初期とされており、龍太郎氏の大臣就任後の帰郷時、昭和26年(1951)の写真と同じ建造物を確認できる。</p> <p>いつからか「止談風月 無用者可入」の看板が掲げられており、「花鳥風月を語るなら用事のない人でも気軽に屋敷にいらっしやい」ということを意味する。この高橋家の家風を尊重し、現在は「文化交流ヴィラ高橋邸」として町が管理・運営を行う。日本の伝統的な茶道・華道・琴などの文化活動や、研修会、遠来の客や外国の人をもてなすゲストハウスとして活用されている。</p> <div style="text-align: center;">  <p>三嶋神社</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>上：現在の旧高橋家住宅</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右：昭和26年高橋龍太郎氏が大臣に就任後の帰郷時の旧高橋家住宅</p> </div>	<p>(P.93)</p> <p>して稲荷神社、松尾神社、多賀神社、祇園社がある。</p> <p>③ 高橋邸</p> <p>アサヒビール株式会社やサッポロビール株式会社の前身となる大日本麦酒株式会社社長や、第3次吉田内閣の通産大臣を務めた高橋龍太郎の生家。高橋家は五百木村の庄屋の分家で、本家の流れを汲み江戸期に「五百木屋」と号して酒造業を営む一方、大洲藩から禄を与えられ多くの使用人を抱える資産家であった。</p> <p>約 800 坪の敷地の前面に丸石を使った石垣と土塀が築かれ、正面に木造平屋建、瓦葺の主屋、左側に木造2階建、瓦葺の離れが建っている。建築年代は昭和初期とされており、龍太郎氏の大臣就任後の帰郷時、昭和26年(1951)の写真と同じ建造物を確認できる。</p> <p>いつからか「止談風月 無用者可入」の看板が掲げられており、「花鳥風月を語るなら用事のない人でも気軽に屋敷にいらっしやい」ということを意味する。この高橋家の家風を尊重し、現在は「文化交流ヴィラ高橋邸」として町が管理・運営を行う。日本の伝統的な茶道・華道・琴などの文化活動や、研修会、遠来の客や外国の人をもてなすゲストハウスとして活用されている。</p> <div style="text-align: center;">  <p>三嶋神社</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>上：現在の高橋邸</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右：昭和26年高橋龍太郎氏が大臣に就任後の帰郷時の高橋邸</p> </div>

■新旧対照表

新	旧
<p>(P95)</p> <p>そして八幡神社の神輿が、甘日市地区の三嶋神社に集まり、三嶋神社の神輿を含む4基で神事を行っている。その後、4基の神輿はそれぞれ先導するダイバンや、ハタモチなど、2、30人をお供に、長い行列となって内子本町商店街を東へ進む。さらに重伝建地区の通りに入って南下し、知清河原の御旅所へ向い神事を行う。神事の様子は古い写真にも残り長く続いている。その後、各々の氏子の地区へ分かれ、神輿は旧高橋家住宅や宇都宮家住宅、旧森家住宅などのかつての商家等の屋敷、元吉岡歯科医院、先述の商いと暮らし博物館など氏子の各家々を門付けして回る。人々の神様への畏敬の念や五穀豊穡への感謝などの信仰心を背景に地域の繁栄はあり、旧高橋家住宅や宇都宮家住宅、重伝建地区、内子本町商店街などの歴史的な建造物の中を渡御する神輿や行列は、昔から続く変わらない秋ののどかな風致を見ることができる。今でも秋祭りは特にまちじゅうが活気づく一日となっている。</p>  <p>昭和36年頃の知清の御旅所での神事</p>  <p>平成29年の知清の御旅所での神事</p> <p>■内子地区の秋祭りの神輿ルート及び氏子（門付け）の範囲</p> 	<p>(P.95)</p> <p>そして八幡神社の神輿が、甘日市地区の三嶋神社に集まり、三嶋神社の神輿を含む4基で神事を行っている。その後、4基の神輿はそれぞれ先導するダイバンや、ハタモチなど、2、30人をお供に、長い行列となって内子本町商店街を東へ進む。さらに重伝建地区の通りに入って南下し、知清河原の御旅所へ向い神事を行う。神事の様子は古い写真にも残り長く続いている。その後、各々の氏子の地区へ分かれ、神輿は高橋邸や宇都宮家住宅、旧森家住宅などのかつての商家等の屋敷、元吉岡歯科医院、先述の商いと暮らし博物館など氏子の各家々を門付けして回る。人々の神様への畏敬の念や五穀豊穡への感謝などの信仰心を背景に地域の繁栄はあり、高橋邸や宇都宮家住宅、重伝建地区、内子本町商店街などの歴史的な建造物の中を渡御する神輿や行列は、昔から続く変わらない秋ののどかな風致を見ることができる。今でも秋祭りは特にまちじゅうが活気づく一日となっている。</p>  <p>昭和36年頃の知清の御旅所での神事</p>  <p>平成29年の知清の御旅所での神事</p> <p>■内子地区の秋祭りの神輿ルート及び氏子（門付け）の範囲</p> 

■新旧対照表

新

(P.100-101)



2-1 新築住宅の完成写真

2-2 新築住宅の完成写真

2-3 新築住宅の完成写真

2-4 新築住宅の完成写真

2-5 新築住宅の完成写真

2-6 新築住宅の完成写真

2-7 新築住宅の完成写真

2-8 新築住宅の完成写真

2-9 新築住宅の完成写真

2-10 新築住宅の完成写真

2-11 新築住宅の完成写真

2-12 新築住宅の完成写真

2-13 新築住宅の完成写真

2-14 新築住宅の完成写真

2-15 新築住宅の完成写真

2-16 新築住宅の完成写真

2-17 新築住宅の完成写真

2-18 新築住宅の完成写真

2-19 新築住宅の完成写真

2-20 新築住宅の完成写真

100 | www.shibui.com | www.shibui.com

www.shibui.com | www.shibui.com | www.shibui.com

旧

(P.100-101)



2-1 新築住宅の完成写真

2-2 新築住宅の完成写真

2-3 新築住宅の完成写真

2-4 新築住宅の完成写真

2-5 新築住宅の完成写真

2-6 新築住宅の完成写真

2-7 新築住宅の完成写真

2-8 新築住宅の完成写真

2-9 新築住宅の完成写真

2-10 新築住宅の完成写真

2-11 新築住宅の完成写真

2-12 新築住宅の完成写真

2-13 新築住宅の完成写真

2-14 新築住宅の完成写真

2-15 新築住宅の完成写真

2-16 新築住宅の完成写真

2-17 新築住宅の完成写真

2-18 新築住宅の完成写真

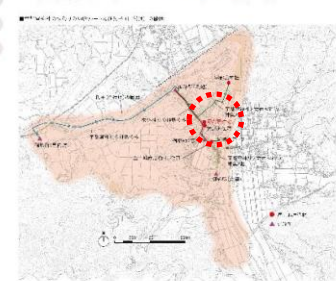
2-19 新築住宅の完成写真

2-20 新築住宅の完成写真

100 | www.shibui.com | www.shibui.com

www.shibui.com | www.shibui.com | www.shibui.com

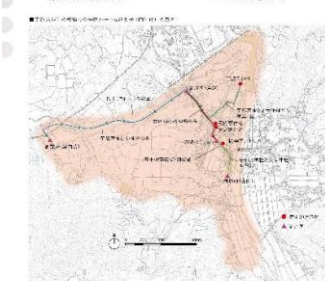
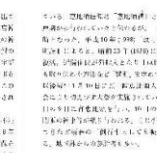
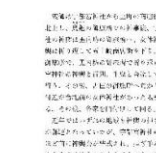
(P.102-103)



102 | www.shibui.com | www.shibui.com

www.shibui.com | www.shibui.com | www.shibui.com

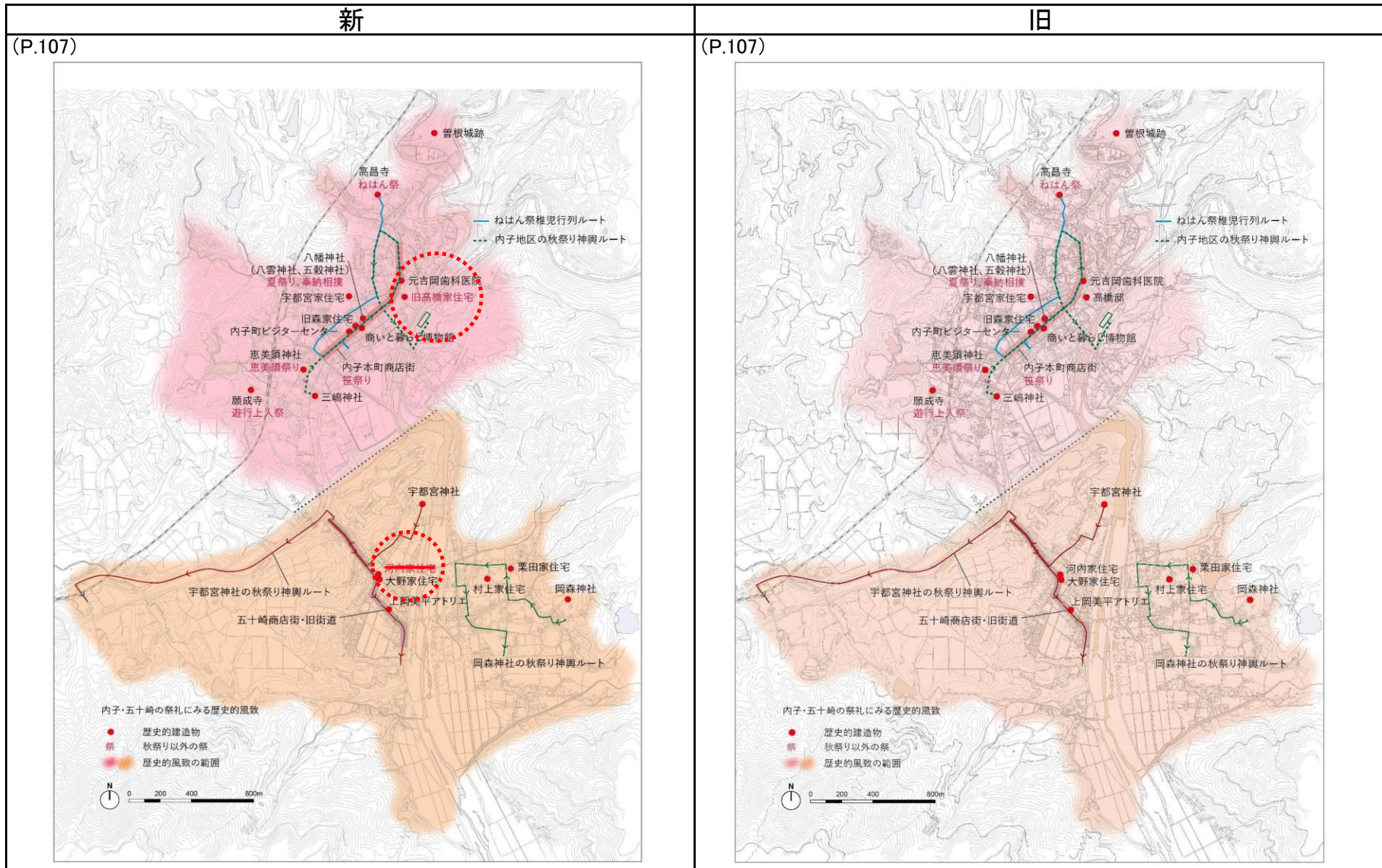
(P.102-103)



102 | www.shibui.com | www.shibui.com

www.shibui.com | www.shibui.com | www.shibui.com

■新旧対照表



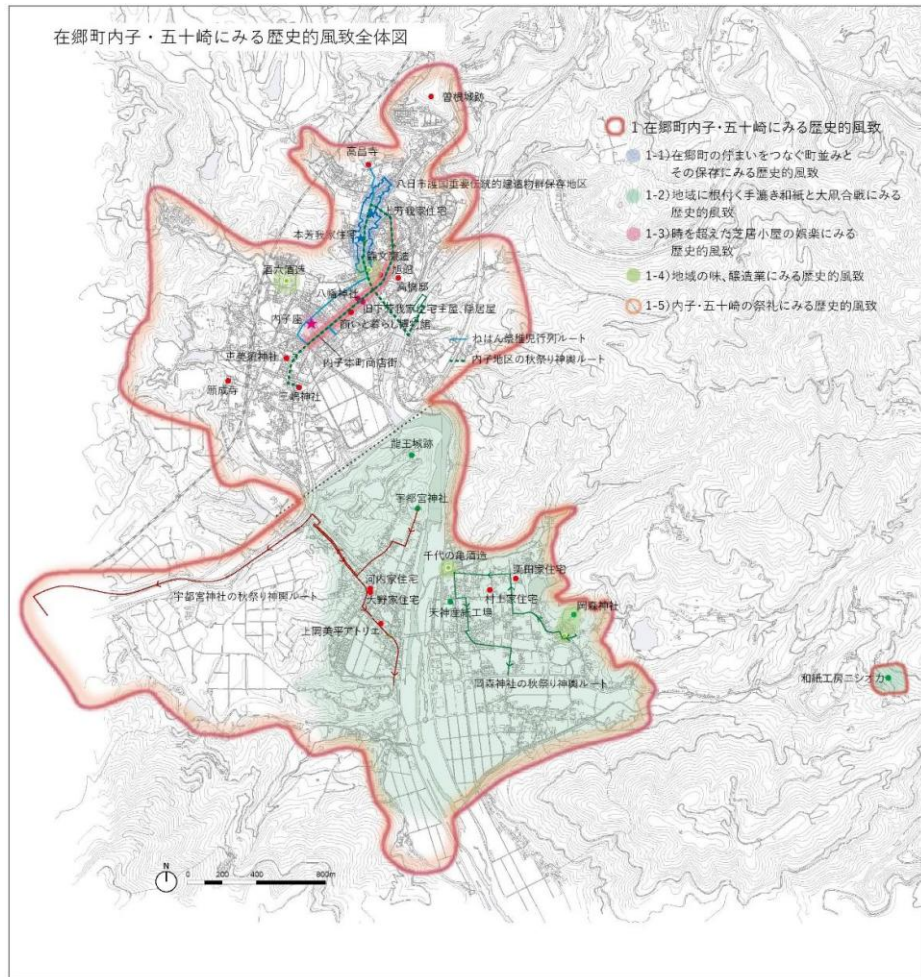
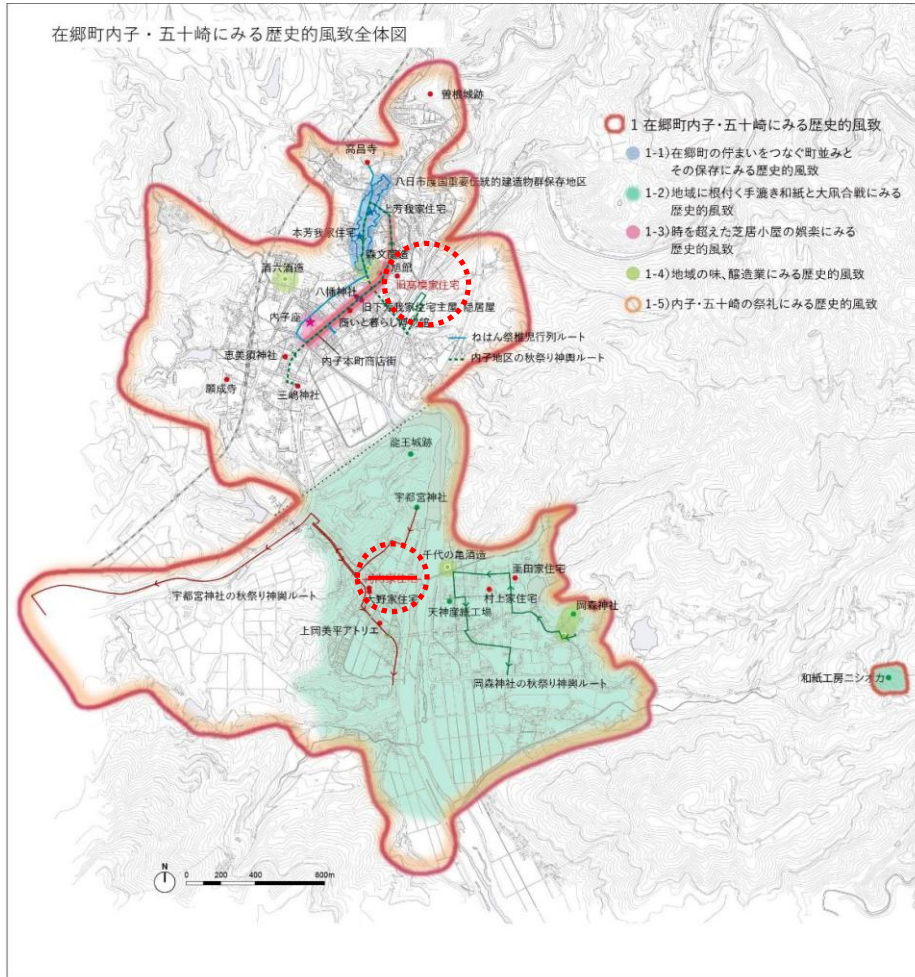
■新旧対照表

新

旧

(P.108)

(P.108)



■新旧対照表

新	旧
<p>(P.178)</p>	<p>(P.178)</p>
<p>(P.191)</p> <p>(1)文化財の保存・活用の現況と今後の方針</p> <p>本町には、国指定(選定)文化財6件、県指定文化財7件、町指定文化財94件の合計107の有形・無形の文化財と、15件の登録有形文化財(建造物)が所在が所在している。</p>	<p>(P.191)</p> <p>(1)文化財の保存・活用の現況と今後の方針</p> <p>本町には、国指定(選定)文化財6件、県指定文化財7件、町指定文化財94件の合計107の有形・無形の文化財と、10件の登録有形文化財(建造物)が所在が所在している。</p>

■新旧対照表

新						旧					
(P.222)						(P.222)					
13	森文醸造醤油・味噌発酵蔵 	内子	個人	江戸後期 ～末期	1-4)	13	森文醸造醤油・味噌発酵蔵 	内子	個人	江戸後期 ～末期	1-4)
14	森文醸造酢蔵①② 	内子	個人	①江戸後期 ②大正期前後	1-4)	14	森文醸造酢蔵①② 	内子	個人	①江戸後期 ②大正期前後	1-4)
(P.223)						(P.223)					
番号	名称	所在地	所有者	築年	歴史的 風致	番号	名称	所在地	所有者	築年	歴史的 風致
15	商いと暮らし博物館（歴史民俗資料館） 	内子	内子町	東：江戸後期 西：明治43年	1-5)	15	商いと暮らし博物館（歴史民俗資料館） 	内子	内子町	東：江戸後期 西：明治43年	1-5)
16	旧高橋家住宅主屋他4棟（登録有形文化財） 	内子	内子町	昭和初期	1-5)	16	高橋邸 	内子	内子町	昭和初期	1-5)

■新旧対照表

新	旧
<p>(P.227)</p> <p>■歴史的風致形成建造物候補の位置図（内子・五十崎地区中心部）</p>	<p>(P.227)</p> <p>■歴史的風致形成建造物候補の位置図（内子・五十崎地区中心部）</p>